

噴火 地震 台風 病

# 史料に見る 江戸時代の災厄の危

武雄市図書館・歴史資料館企画展

## ごあいさつ

今年3月11日に発生したマグニチュード9.0の巨大地震では、東北地方沿岸に大津波が押し寄せ、2万人余(8月10日現在)という死者・行方不明者を出す未曾有の大災害を惹き起しました。自然の巨大なエネルギーを前にしては、人間の無力さを思い知らされる出来事となりました。

武雄鍋島家資料中の記録である「御日記草書」には、今から220年前の寛政4(1792)年4月1日に島原で山津波が発生し、島原城下の人家が流失し、言語道断の大変さであるとの記載があります。世に言う「島原大変」の記事で、この時の災害では、1万5000名もの死者を出したと伝えられます。太平洋プレートの西端に位置し、火山の多い日本では、こうした自然災害は逃れられない宿命にあるともいえます。今回、武雄市図書館・歴史資料館ではこのような、人々の身近に起こり多大な被害を及ぼした火山噴火や地震、津波、台風などの自然災害や天然痘という疫病を取り上げ、それぞれの時代に人々がその苦難に向き合った姿にも注目する展示を取り上げてみました。

これにより、防災・防疫への意識を深めていただければ幸いです。  
本展示にご協力いただいた関係者の皆様にお礼申し上げます。

観覧無料

武雄市図書館・歴史資料館

9月10日(土)～10月16日(日)

平成23年  
会期・会場

午前9時～午後5時

休館日 9月12日(月)・15日(木)・20日(火)・26日(月)  
10月3日(月)・11日(火)

主催 武雄市図書館・歴史資料館  
TEL 0954-20-0222  
〒843-0022 武雄市武雄町大字武雄5304番地1  
後援 佐賀新聞社・西日本新聞社・朝日新聞社・毎日新聞社・読売新聞佐賀支局  
NHK佐賀放送局・STVサガテレビ・㈱ケーブルワン・NHCラジオ佐賀  
担当学芸員による  
ギャラリートーク 10月10日(月)



9月11日(日)・23日(金)  
13:30より当館にて開催いたします。

題字：武雄市図書館・歴史資料館 館長 杉原豊秋

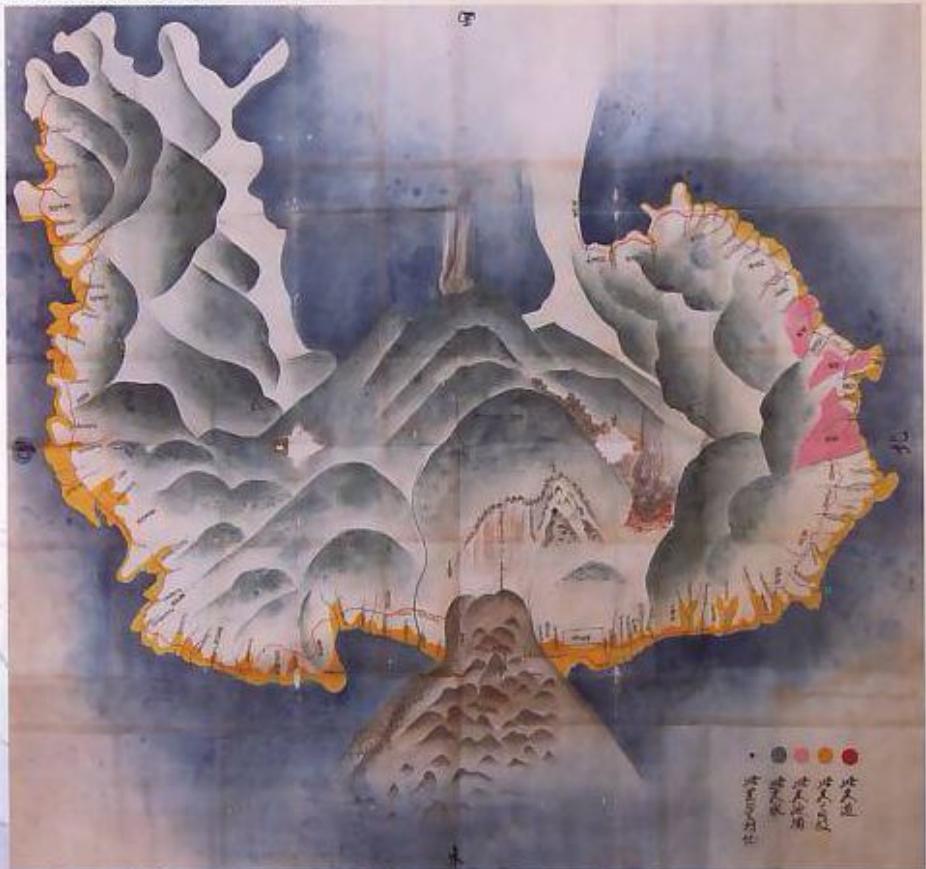
大変後島原絵図(島原市 本光寺)

## 一 御日記草書に見る地震の記録

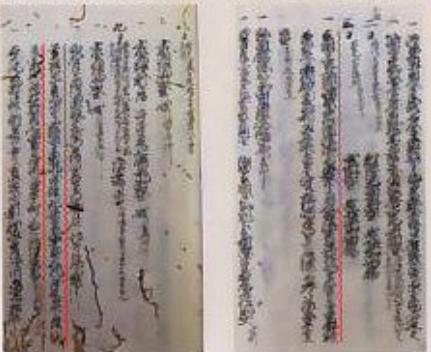
「御日記草書」は、江戸時代、佐賀に置かれた武雄屋敷における武雄の活動を記した公式記録で、天明5(1785)年から天保6(1835)年までのもの51冊が残されています。現在も日記には日付に続けて天候を記すことが多いように、当時も冒頭に天候が記載されています。

地震の発生や台風の襲来を書き留めたものも随所に見られ、当時においても地震・台風は人々の大きな関心事であったとみることができます。

大変後島原絵図(島原市 本光寺)



寛政四年  
御日記草書  
(武雄市 武雄鍋島家資料)



肥前国島原津波之絵図(公益財団法人 永青文庫)



島原大変前



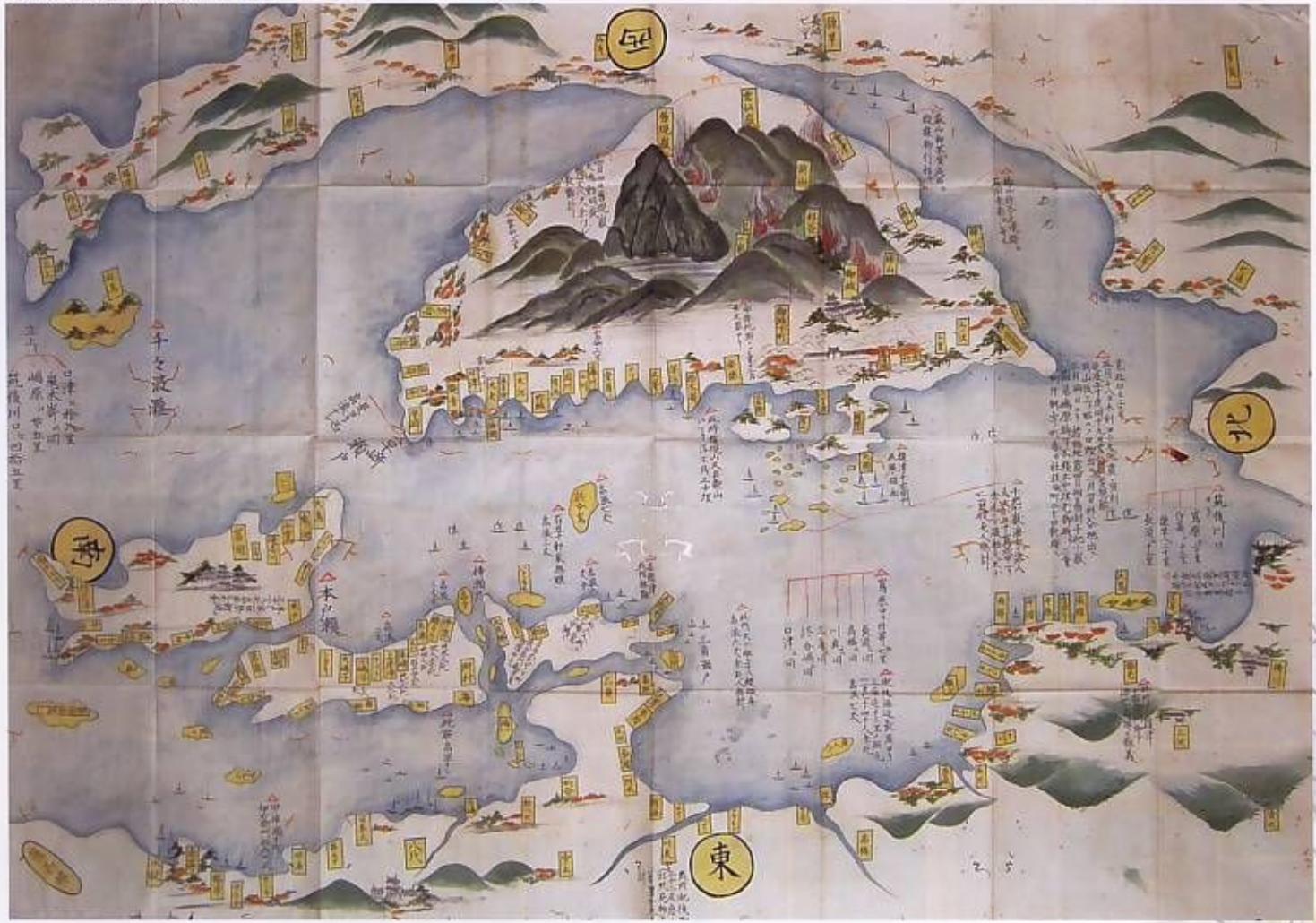
島原大変後

## 二 島原大変

今から21年前の平成2(1990)年11月に198年ぶりに噴火を開始した長崎県島原半島の雲仙普賢岳が、翌年5月30日には大火碎流を惹き起こし43名の尊い命を奪ったことを記憶しておられる方も多いでしょう。普賢岳はそれ以前にも寛文3(1663)年と寛政4(1792)年にも一連の噴火活動が認められます。

とくに寛政4(1792)年正月18日に始まる噴火活動では、4月朔日(1日)酉刻(夜8時頃)に発生したマグニチュード6.4の地震によって島原市街地の後方にそびえる眉山(前山)が大崩壊を起こし、3.25億立方メートルの土砂が一度に島原湾に流れ込み、発生した津波は島原半島と対岸にある肥後・天草の沿岸各地を襲いました。津波の週上高は20~50メートルにも達したといわれ、多くの家や田畠を一瞬に飲み込みました。武雄鍋島家資料中の「御日記草書」にも、島原で山津波が発生し、島原城下の人家が流失し、言語道断の大変さであるとの記載があります。死者15,000人という多大な被害者を出したこの災害は「島原大変 肥後迷惑」という言葉を生み出すことになりました。

島原大変肥後迷惑図(個人)



肥前温泉災記(島原図書館 肥前島原松平文庫)



諺絵 夜は安政 民の涙(個人)



神代鍋島家資料(佐賀県立佐賀城本丸歴史館)



### 三 「九州の大火山」

現在も活発な活動を繰り返す熊本県の阿蘇山と鹿児島県の桜島は九州を代表する火山です。両火山とも有史以来活発な噴火を繰り返し、その活動はさまざまなかたちで記録されてきました。

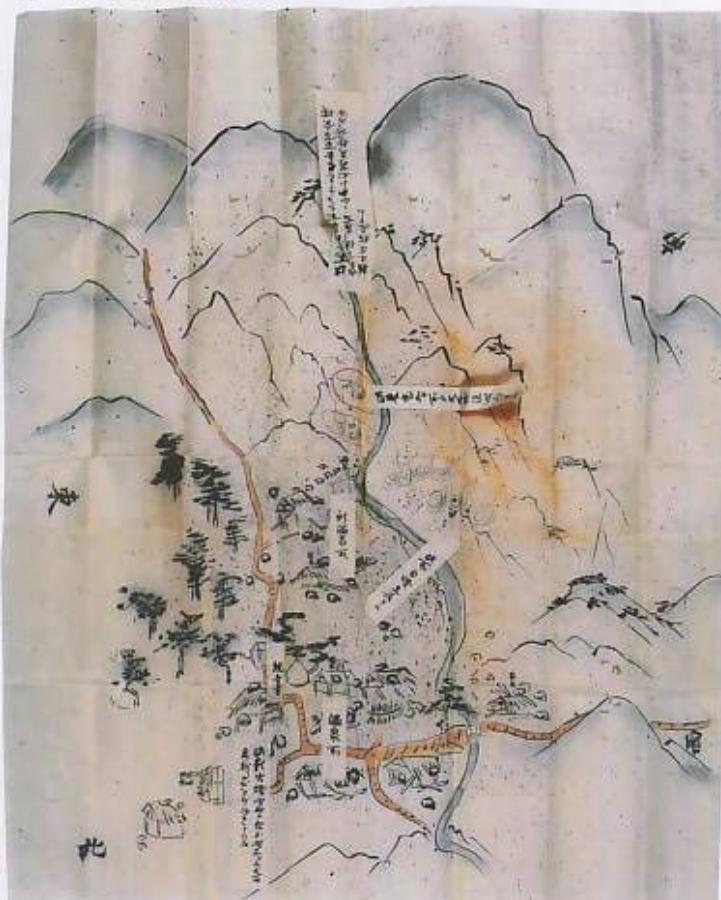
阿蘇山については、中国の史書「魏志」にもその記述が見られます。阿蘇神社の神主家は、古代から阿蘇山の噴火鎮静のためと国家安寧の祈禱を行なうことで、地位の向上に繋げてきたほどです。江戸時代、文化14(1816)年6月に阿蘇湯の谷で起こった「湯ノ谷大変」と呼ばれる爆発では温泉宿の間近で高温の泥湯、噴石などが吹き上がり、地すべりも発生、家屋の倒壊や負傷者が出ていた様子などが絵図とともに報告されています。また、有史以前、今から9万年前には、阿蘇山の噴火に伴なう大規模火碎流が発生、九州ほぼ全域の生物が壊滅したといわれています。佐賀県上峰町では、平成5(1993)年、この時の火碎流による巨大な倒木群も発見されています。

また、桜島でも、天平時代の噴火をはじめとして多くの活動の記録が残されていますが、安永8(1778)年の大噴火の様子を描いた絵図が残されています。さらに大正3(1914)年の大爆発は大きな被害をもたらし、流れ出した溶岩は桜島と大隅半島を陸続きにしました。この両度の噴火は歴史的にも凄まじく、多くの絵や写真が残されています。

阿蘇山噴火絵葉書(阿蘇火山博物館)



湯ノ谷大変 附図(爆発後) (南阿蘇村教育委員会)



湯ノ谷大変 附図(爆発前) (南阿蘇村教育委員会)



山下兼秀筆 桜島爆発図(鹿児島市立美術館)



安永八年桜島爆発絵図(鹿児島県立図書館)



山下兼秀筆 大正三年桜島大爆発巻(個人)



三空庵地蔵菩薩立像(西松浦郡有田町)



## 四 「子年の台風

文政11(1828)年、空前の台風が佐賀藩を直撃しました。台風は8月9日の深夜から翌朝にかけて北九州を駆け抜けました。戊子の年であったため「子年の台風」と呼ばれるこの台風は、記録上最大級の台風といわれ、屋久杉の年輪による研究などから中心気圧900ヘクトパスカル、最大風速50メートルと推定されています。

九州の災害が最も激しく、なかでも佐賀藩の被害は甚大でした。台風は豪雨をもたらし、有明海の満潮とも重なり、現在の佐賀市川副町の大詫間では海水が家を流しつくし多数の溺死者を出しました。また、家並みが谷間に細長く連なる西松浦郡の有田町では、吹きすさぶ大風が岩屋川内の素焼窯を吹き飛ばして大火となり、焼物町1,000軒の内850軒余が灰になつたといいます。佐賀藩全体で、水や海水に浸かつた田畠など15,000町余・全壊家屋35,000余軒・半壊家屋20,000余軒・怪我人8,853人・死者8,225人・牛馬被害848匹。佐賀県災害史上、著名な台風でした。

また、台風は、帰国予定のシーボルトの船を襲い、座礁した船の積荷から管制の日本地図が発見されました。シーボルト事件の発端となつたとして「シーボルト台風」の名で呼ばれる日本史上でもまた著名な台風です。

台風が去つた後、米がたちまち不足、藩の借財は以前からのものも加えて13万両(現在の金額では百数十億円)にのぼりました。

## 五 一天然痘

江戸時代には、幾度も痘瘡(天然痘)の大流行がありました。種痘が疱瘡に対して免疫性を有することは古くから知られていましたが、これまでの種痘法(人痘種痘法)には安全性に問題がありました。しかし、1796年、イギリスのジョンナーが安全な牛痘種痘法を発見して以降、この牛痘種痘法が擴がりをみせるようになりました。

嘉永元(1848)年、佐賀藩主直正は藩医植林宗建に命じ、オランダ商館長モニッケを通じて、翌年バタビア(ジャワ島)から痘瘡を輸入、長崎で多数の子供たちに接種されました。直正は、侍医大石良英を長崎に派遣、同じく種痘の接種を済ませた宗建の長子永叔を伴ない佐賀に急行、8月22日には佐賀城内で4歳の嫡子淳一郎(のちの11代藩主鍋島直大)に種痘を実施、続いて家老格の子供たちに接種しました。

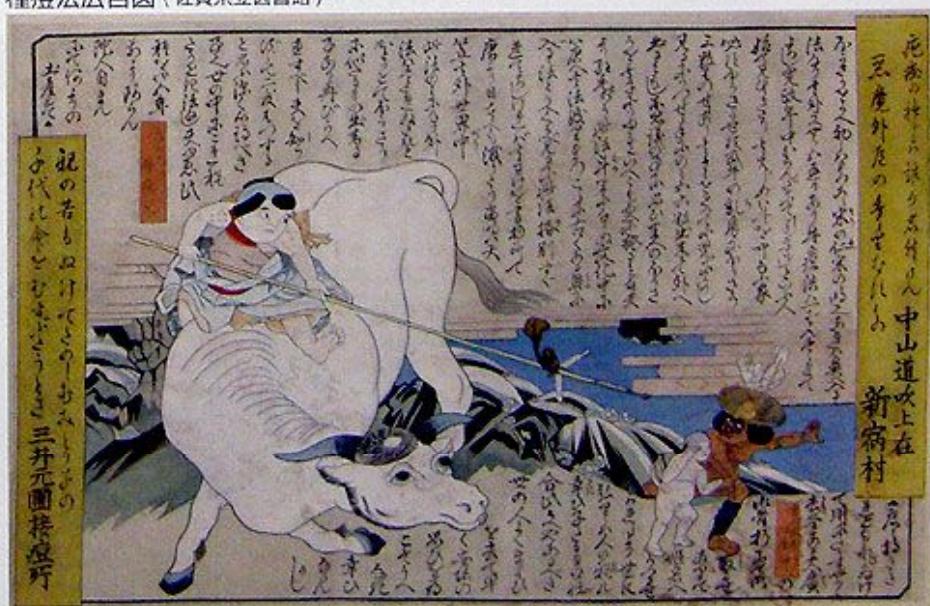
これを機に、佐賀藩では領内の子供たちに接種、「若殿様の貴いお種のお流れ頂戴」と評判になり、種痘接種は瞬く間に領内に広まつたといいます。9月には痘瘡を江戸に運ばせ、神埼出身で江戸に蘭学塾象先堂を開く伊東玄朴の娘春に接種、続いて直正の長女貢姫にも接種しました。

これがお玉ヶ池の種痘所の設置につながり、伊東玄朴の名声をいつそう高める契機となつたといいます。以来、約半年の短期間に、日本全国に種痘が広まり、佐賀藩はまさに予防医学の先駆となりました。

なお、武雄では、長崎で種痘の勉学に励んだ武雄の医師中村涼庵が、佐賀本藩に先立ち天保8(1837)年に領主鍋島茂義の子茂昌(はるまさ)に牛痘を接種したこと



種痘法広告図(佐賀県立図書館)



### 協力者 (敬称略)

- 南阿蘇火山博物館
- 有田町歴史民俗資料館
- 雲仙市教育委員会 国見町図書館
- 鹿児島県立図書館
- 佐賀県立美術館
- 佐賀県立病院好生館
- 佐賀大学附属図書館 小城鍋島文庫
- 佐賀地方気象台
- 島原市教育委員会
- 島原図書館 肥前島原松平文庫
- 島原市役所
- 島原市瑞雲山本光寺
- 武雄市小楠区
- たばこと塙の博物館
- 井上公夫
- 岡積松之助
- 大木公彦
- 片山弘賢
- 正司米夫
- 庄野辰一
- 佐賀財團法人永青文庫
- 国土交通省雲仙復興事務所
- 佐賀県女性と生涯学習財团
- 佐賀県立佐賀城本丸歴史館
- 佐賀県立図書館

## 武雄市図書館・歴史資料館

T843-0022 佐賀県武雄市武雄町大字武雄5304番地1

TEL 0954-20-0222 FAX 0954-20-0223

URL <http://www.epochal.city.takeo.lg.jp>  
mail epochal@epochal.city.takeo.lg.jp

